

感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の新規変異株

株	感染性	重篤度	再感染（抗原性）	ワクチンへの感受性	流行状況
VOC -202012/01	<ul style="list-style-type: none"> ● 感染性増加が懸念される変異を有する ● 伝播性が5～7割増加の推定結果がある ● 2次感染率の30~50%増加を示唆する解析結果がある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 分析はまだ不確かで更なる研究が必要とした上で、1.3倍程度の死亡リスク上昇と関連する realistic possibility*1がある <p>*1 40~50%の確からしさを示す表記</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 野生株との交叉中和能あり ● 再感染率について野生株との有意差なしの暫定結果 	<ul style="list-style-type: none"> ● ファイザー社ワクチン接種後血清で、シュードタイプウイルス*2使用実験では効果に影響がないことを示唆 <p>*2 実験・抗体検査を目的に人工的に作られる、別のウイルス粒子の表面にSARS-CoV-2のスパイクタンパクを発現させたウイルス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 英国で2020年9月に初確認、90%以上を占める可能性 ● 50カ国以上で渡航者等から検出 ● アイルランドで検出割合が増加し、全ての地域と年齢層で検出。 ● イスラエルで当局が”widespread transmission”と報告。
501Y.V2	<ul style="list-style-type: none"> ● 感染性増加が懸念される変異を有する ● モデリング上、2次感染率が50%程増加の推定結果がある 	<ul style="list-style-type: none"> ● より重篤な症状を引き起こす可能性を示唆する証拠なし 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中和抗体からの逃避変異とされるE484K変異を有する ● 中和抗体からの逃避を示唆する実験結果あり ● 過去の感染による免疫から21%逃避している可能性が推定されている 	<ul style="list-style-type: none"> ● シュードタイプウイルス*2使用実験で、ファイザー社やモデルナ社ワクチンで誘導される中和抗体に若干中和されにくいことが示唆される報告があるが、有効性への実際の影響は不明である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 南アフリカ共和国で8月下旬に発生、11月中旬にほぼ全例(80-90%)を占める ● 20カ国以上で渡航者等から検出
501Y.V3	<ul style="list-style-type: none"> ● 感染性増加が懸念される変異を有する 	<ul style="list-style-type: none"> ● より重篤な症状を引き起こす可能性を示唆する証拠なし 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中和抗体からの逃避変異とされるE484K変異を有する ● 他株への既感染者の再感染事例の報告あり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 関連する研究報告なし 	<ul style="list-style-type: none"> ● ブラジル・アマゾナス州から報告あり。マナウスで12月中旬~下旬に42%（13例/31例）から検出の報告。 ● 韓国、日本、フェロー諸島でブラジルからの渡航者から検出